

2025年2月28日

各 位

会社名 株式会社サイフューズ  
代表者名 代表取締役 秋枝 静香  
(コード番号：4892 東証グロース)  
問合せ先 取締役 CFO 経営管理部長 三條 真弘  
<https://www.cyfusebio.com/contact>

## 2024年12月期 通期決算に関する質疑応答集

当社の2024年12月期 通期決算に関しまして、株主、投資家等の皆さまからいただいたご質問及び当社からの回答につきまして、主なものを以下のとおりお知らせいたします。

本開示は市場参加者の当社に対するご理解を一層深めることを目的として当社から情報提供を行うものであり、当社の判断において一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

なお、本開示は、現時点での情報に基づいて当社回答を取りまとめたものであり、当社の現在の見通し、予想、計画等を含む将来に関する記述が含まれておりますが、実際の進捗、将来の出来事等に照らして、様々な要素によって変動する可能性があることにつきご了承ください。

### 1. 2024年12月期の実績の内容と今後の見通しについて教えてください。

- 2024年12月期は、世界初となるバイオ3Dプリンタ製の神経導管を用いた治験の良好な結果を受け、①再生医療領域では、末梢神経再生及び骨軟骨再生の3つのパイプライン開発について治験開始(2025年度開始予定)に向けた準備が進展、②創薬支援領域では、「ヒト3Dミニ肝臓」の需要拡大により販売体制を強化、③デバイス領域では、今後の新製品開発等に繋がる新技術開発の成功など、再生医療等製品の生産技術開発を加速しました。
- これらの各事業領域における製品開発等の順調な進展に伴い、売上につきましては、3D細胞製品に関する各種受託及び関連消耗品の販売等が堅調に推移しました。
- また、バイオ3Dプリンタ等のデバイス製品に加え、ヒト3Dミニ肝臓のような3D細胞製品についても新たな需要の増加などにより、細胞製品関連の売上が伸びてきている傾向がみられました。
- 販管費につきましては、概ね計画通りに推移(支出)しました。
- 2024年12月期の開発面(製品上市の蓋然性向上)及び事業面(将来の収益性向上)における様々な成果達成を踏まえて、成長期から拡大期に向かって引き続き、さらなる中長期成長の確度向上へ向け事業展開を進めてまいります。(2024年12月期決算説明会資料P.4参照)

### 2. 末梢神経再生に関する自家細胞での製品開発とともに同種(他家)細胞での製品開発を並行して進めるとのことですが、開発戦略上の意義等について教えてください。

- 疾患ごと臓器ごとに最適な細胞を選択のうえ、どのような細胞からでも組織・臓器を作製することができる当社独自のノウハウ及び基盤技術を用いることで、自家細胞を使用した製品及び同種(他家)細胞を使用した製品を同時開発することが可能となりました。

- ・ 自家細胞製品に同種（他家）細胞製品が製品ラインナップとして加わることで、将来的に患者さまにとって治療法の選択肢を増やしていくことができるよう、開発に取り組んでまいります。（2024年12月期決算説明会資料 P.22 参照）
- ・ 末梢神経再生に関しては、これまでに得ている良好な成果を活かし、応用展開できる見込みもあるため、ミニマムな開発コストと開発時間で製品化の可能性を最大化できるものと考えております。

**3. 3D 細胞製品のサプライチェーンに関して、3D 細胞製品の凍結保管技術の内容や開発状況について教えてください。**

- ・ 当社が有するバイオ 3D プリンティング等の基盤技術に、パートナー企業である岩谷産業株式会社が産業ガス事業で培ってきた液体窒素を利用した凍結技術を活用することで、3D 細胞製品の新たな凍結技術を共同で開発しました。（2024年12月期決算説明会資料 P.41 参照）
- ・ この新しい凍結技術が実用化されれば、例えば、3D 細胞製品の凍結輸送により世界中へ運ぶことができるようになる、また、急性期の患者さまへのご提供が可能となるなど、さらなる事業展開の拡大が見込めるものと考えております。
- ・ 本新技術につきましては、「第 23 回日本再生医療学会総会」（2024年3月開催）のような著名な学会において開発成果を共同で発表するなど、パートナーシップによる実用化に向けた共同技術開発が加速しております。

以上